

津田塾大学取組紹介

ライティング カフェの試み

飯野 朋美（津田塾大学ライティングセンター 特任助教）

津田塾大学の取り組みの紹介ということで、私たちが行っているライティングカフェの試みをご紹介します。

初めに、津田塾大学の概要をご説明します。

津田塾大学は、東京の郊外にある女子大学です。

1900年に女子英学塾として創立されました。ちょうど今年に創設者津田梅子の生誕150周年に当たります。学芸学部1学部の単科大学で、英文学科、国際関係学科、数学科、情報科学科の4学科があります。学生数は、大学院生を含めて2,800名ほどです。

ライティングセンターは、2008年11月に設立されました。文部科学省教育G Pに採択された「社会貢献は書く力とプロジェクト推進力から」という取り組みの一環として設立されました。現在、特任教員が2名、大学院の博士課程在籍者または終了者のチューター2名という4名体制で日本語の相談に当たっています。チューターは全て女性です。2013年度からは英語の個別相談も始めて、英語母語話者の非常勤教員1名が担当しています。

個別相談は、あらゆる文章を対象としています。つまり、レポートや論文はもちろん、留学やゼミなどの志望理由書、就職のエントリーシート、そのほか企画書、手紙など、まさにいろいろな文章を相談の対象としています。

ライティングセンターの設立のきっかけが教育G Pに採択された取り組みの一環だったということですが、その取り組みが、「書く力を備え、企画推進力のある、社会に貢献できる女性の育成」という内容でした。そこで、書くことだけでなく、社会に貢献できるリーダーシップを培うという観点からも学生をサポートしています。そこで、さまざまな講演会等を開催しています。例えば、いろいろな分野で活躍してい

る女性による「女性のリーダーシップから学ぶ」講演会、書くことを職業としている方による「書くということと私」講演会、また、書く力を磨くための「日本語ライティング講座」などです。

2013年度の個別相談件数は564件でした。相談後には、学生がセッションの振り返りをするためにアンケートを書いてもらっています。時間がない場合を除いて皆さんに答えてもらうようにしていますが、アンケート回答者の満足度は100%を誇っています

今日ご紹介するのはライティングカフェの試みです。ライティングカフェというのはどういうものかという、文字どおり、お茶を飲みながらライティングについてお話をしましょうという企画です。個別相談をするにはウェブサイトから予約をしなければいけないのですが、この予約が面倒だと思ったり、「ライティングセンターは怖いところ」「敷居が高い」と思う学生がいます。そういった学生のために、企画しました。お昼休みに気軽にセンターに来てください、お茶とお菓子も用意しています、ざっくばらんにお話ししましょうという試みです。

こちらがライティングカフェのチラシです。左側

が表で、右側が裏面です。裏面には担当チューターの似顔絵が入っ



ています。この似顔絵は、特任の大原先生の手によるものです。親しみやすい雰囲気を出そうという狙いがあります。また、似顔絵と一緒に各チューターの専門分野なども書いてあるので、学生にとっては、例えば、就職のことを聞きたいというときには、社会人経験のあるチューターの曜日に行ってみるというようなことになるかと思います。

こちらが
ライティ
ングカ
フェの
様子で
す、左
側に
いる
のが
チュ
ー



ターで、レポートの書き方について説明しているところ
です。

ライティングカフェは2013年度から2014年度まで、22回開催して、延べ参加者は57名でした。最初のうちはあまり知られていなかったもので、参加者も少なかったのですが、だんだん口コミ等でふえてきたという状況です。

学生がカフェに来る目的を尋ねたところ、レポートや課題の相談という具体的な目的がある人が23人いました。就職活動について、エントリーシートなどについて相談したいという人が9人、ただおしゃべりしたいから来たという人が8人いました。

参加者が1人しかいない、もしくは2人くらいのときは、じっくりとその参加者の相談したいことについて話すことができますが、学科や学年がばらばらで、人数が多いこともあります。そういうときには、上級生が、下級生にレポートの書き方や就職活動についてなどアドバイスする、そういった様子が見られました。これはまさにピア・ラーニングが見られたというふうに、私たちも実感しています。

また、学生同士、悩みを相談し合うような場にもなっています。初対面で来ている学生同士さまざまな話ができる場になっているということです。

2014年度は、このライティングカフェに、また新たな試みをしました。5月に4日間開催しましたが、このときは「レポートの書き方ミニ講座」として開催しました。これは関西大学の「ワンポイント講座」にヒントを得ての、お昼休みの講座です。こちらは4回の講座で延べ参加者が46名でした。初日は7名だったのですが、行ってみてよかったという学生の口コミ

で参加者が増えたのだと思います。

講座形式にしたのは、日ごろ相談を担当していて、学生が何をどのように書いていいかわからないという悩みを持っているというのが本当に多いということを実感しているからです。ライティングの相談というと、レポートなど書いたもの、つまり結果として出てきたものについて検討するというイメージがありますが、実のところ、学生たちは書き始める前につまづいているということが多々あります。そういったライティングのプロセスの支援、つまりレポート課題が出たところから書き始めるまでの支援も必要だと考えました。そしてセンターとしてできることというのが、まずこのような講座の開催でした。

今年度の2回目は、通常のカフェもやってほしいという声がありましたので、また通常のカフェ形式をしました。こちらは4日間で25人の参加ということですので、やはり参加者が増えている、認知度が上がっていると思います。

ミニ講座に出席した学生に、もっと知りたいことは何かと聞いたところ、次のような内容が出てきました。文章の構成の立て方や、資料検索の仕方、就職で役立つライティング、また書く力を向上させる方法、よい表現、言い回しなどです。

ライティングカフェの効果ですが、先ほど申し上げましたように、学生同士の学び合いの機会となるということがあると思います。また、書くことに対する学生の悩みが、より詳しくわかります。話しやすい、学生にとっても話しやすい雰囲気の中で講座を開くと、やはり質問がしやすい。1人が質問すると、また別の質問が出てくるといった効果がありました。また、これがやはり一番大きいのですが、ライティングセンターの宣伝になります。これまでライティングセンターに来たことがなかった人が、ライティングカフェにやっけてきて、その後すぐに個別相談を予約するということがよく見られます。

今後はまた12月に講座形式で開催します。再びレポートを書く前の準備として、テーマ決定の方法や

シンポジウム議事録

シンポジウム「ライティング支援の未来像－社会との効果的な連携と支援ツールの活用－」

平成 26 年 11 月 8 日（土）14：00～17：30

資料の検索の仕方、アウトライン作成などを含めた
各準備のチェックポイントなどを講義したいと考えて
います。